

植物データ

学名 Magnolia obovata 分類 モクレン科モクレン属(落葉高木)
別名 ホオガシワ、フーノキ、ホーパ 原産 北海道、本州、四国、九州、中国

別名のホオガシワがもとの名。
カシワは、食物を盛る大型の葉、炊葉(かしきは)が語源。
「ホオ」は、包(ホウ)の意、あるいは中国の厚朴
との説もあるが不明。



朴の木ってこんな木 朴の木の全て

【 朴の花 】

爽やかな風に乗って甘い香りが広がります

5～6月頃に白い花を咲かせます。大きさは15～20cmもあります。花びらは6～9枚あり、「両性花」といい、ひとつの花に雄しべと雌しべが存在します。咲き始めは白色ですが、しだいにクリーム色を帯びてきます。



花言葉

誠意ある友情

【 朴の葉 】

万葉集にも記されている葉の活用!

大きな葉は、古くから食べ物を包んだり、食器の代わりとして利用されてきました。7枚ほどの葉が輪になって付いており、「輪生」といいます。葉には殺菌作用や防カビ効果があり、包むと良い香りも移ります。



万葉集

原文

皇神祖の遠御代御代はい敷き
折り酒飲みきといふそこの保
宝我之波

意味

古の天皇の御代には折り畳み、
酒を飲んだそうだ、この
朴の葉は



ホオノキ(朴の木)

高さ20m以上、直径1mに達するものもある。枝が少なく、まっすぐな樹形となる。各地の山野に自生し、全体に芳香があり、大きな葉と花、細工がしやすく美しい材など、人の生活の中で広く親しまれてきた。各地の正月や盆の行事の中でも広く登場する。

幹は灰白色で真っすぐに伸びることが多い。樹皮は樹齢を重ねると皮目(横線)が入るがほぼ滑らかで、山の中でも比較的分けやすい。

生薬としても利用される!?

ホオノキの樹皮や根皮を乾燥させたものを「厚朴」といい、消化器の疾患や、精神神経症をやわらげるための生薬として古くから用いられていました。

